

鳩尾に触れてかそけき縮かな

野本 京

歳時記をめくっていて、季語が向こうから目に飛び込んでくる時がある。縮布が肌に触れた感覚が蘇る。蒼生さんが言っていた皮膚感覚で詠むとはこういうことだったのだろうか。みぞおちを国語辞典で引くと字面も面白く一句に成った。初めての「当月集」掲載。

昭和六十二年作